

目次

- ・からだもころものびのび…… 1
- ・共働舎とんぼガーデン…… 1
- ・高校でのビオトープづくり…… 2
- ・保育園ビオトープの改修…… 3

- ・田んぼから…… 3
- ・とんぼどこまで調査に参加…… 4
- ・ゴーヤのカーテンできた?…… 4

★からだもころものびのび★6月8日(日)、新宿御苑にて新宿・子育てを考える会と新宿子ども劇場の合同企画による「からだと心のびのび自然と遊ぼう、ふれあおう」というイベントが開催され、インストラクターを務めました。

この合同企画も今年で2年目、きっかけとなった新宿・子育てを考える会さんの企画を入れると4年目となり、恒例のように楽しみに待っていてくださる方が増えてきたことを、とても嬉しく思っています。

内容は、ネイチャーゲームや自然遊びなどを取り入れ



大好評! 笹舟流し

て、未就学児～小学生の親子で楽しみながら心もからだも解放的になれるものを考えました。その一部をご紹介します。

昔懐かしい**笹舟流し**

はいつもみなさん楽しそう。互いに作り方を教えあったり、花を乗せた舟にしたり、舟の行方を見守ったり。時間も舟も、ゆったりと流れて行きました。

普段外へ出るというのに興味を示しては立ち止まる子どもに「早くしなさい!」「こっちに来なさい!」とお父さん、お母さんは大変ですね。でも今だけは逆に子どもが行くところはどこへでも親がついて行く



「どこでも散歩」。

おとながコウモリ、子どもたちがガになって自然界の「食う・食われる」体験をするネイチャーゲーム<コウモリとガ>。必死なお父さんコウモリに捕まえないように子どもたちが喜々として逃げ回ります。御苑の夜もこんな



<コウモリとガ> 思いっきり大きな声を出して走り回る!

ふう生きもの世界が繰り広げられているのかな?と思いはせませす。

いろんなにおいをさがしたり、二人組みで瞬間の自然の美

しさをころもとどめる<カメラゲーム>などを楽しみ、最後に草の上にゴロンと寝転がります。大地とからだをくっつけ、雲が流れる空を見上げ、目を閉じ、草のにおいに囲まれていろんな緊張をほどいていきます。

このように体をめいっぱい動かしたり、逆にゆっくりしたりしながら、五感を全開にして自然と人とふれあう1日。私にとっても最高に楽しい時間でした。☆この項の写真提供:西村晴美さん☆

★共働舎とんぼガーデン★6月から8月にかけて共働舎のとんぼガーデン(ビオトープ)では①共働舎を利用している方との自然ふれあい体験(2回)②地域の方々が参加する「とんぼガーデン観察隊」のワークショップ(3回)が開催されました。

①では、おもに五感を使ってとんぼガーデンや職場の身近な自然とふれあうことをねらいに展開しました。



「いいにおい」をさがしています。それぞれ、クンクン



これから耳を澄ませて回りの音をよ〜く聞いてみよう

同じアクティビティを何度か繰り返すことで、利用者の人たちが次第に主体性を発揮するようになり、また、もともと持っていたであろう感受性の豊かさもいっそう磨かれ引き出されていく様がとてもよく感じられました。私自身も驚き、嬉しさとともに「繰り返し実践する」ことの効果と重要性の認識を深めました。

②では、ビオトープの観察と維持管理作業を組み合わせ、より生きものが喜ぶ場所にする活動をし、それとともに共働舎周辺の地域の自然環境とのつながりも考えて行きました。

まず、池の中にどんなヤゴ(トンボの幼虫)がいるかをみんなで調べました。その結果、赤とんぼのヤゴがほとんどいないことがわかり、では、どうしたら赤トンボも喜ぶ場所になるか考えました。

次の回では、それを受けて小さい池にもう少し水が溜まるように子どももおとなも一緒に改修しました。

さらにたくさんの生きものが喜ぶ場所にするために、草むらをもう少し充実させるようにしました。



どうしたら赤とんぼも喜んで来てくれるだろう？

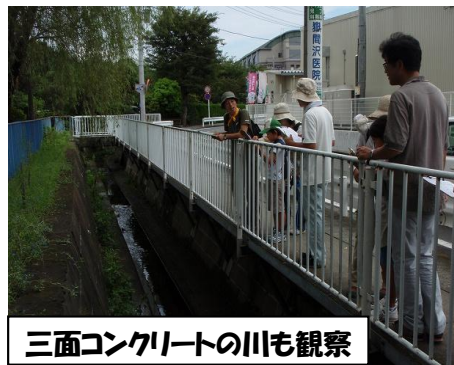


赤とんぼのために小さな池を改修。みんなで踏んでかためて！



3月に養生しておいたマコモ(水生植物)を7月初めに植えつけました。イトトンボが喜ぶかな？

8月最後の土曜日には外へと飛び出し、トンボとチョウを見つけて地図に書き込んでいきました。子どもはもちろん、おとなもみんなだんだんと見つけるのが上手になり、地図がたくさん書き込みで埋まりました。みんな楽しそうでした！



三面コンクリートの川も観察

共働舎のビオトープ事業は、人と自然の研究所・三森典彰氏・私の3者で協働展開しています☆

★高校でのビオトープ作り★横浜市内のある県立高校の池型ビオトープ作りに講師として参画しました。



こんな場所でした

この結果を次回以降のプログラムの中で、とんぼガーデンと地域の自然環境を考える材料にしてい予定。☆

校舎の裏のスペースで、まったくの更地を池にする計画です。生徒の皆さんと作業する時間は3時間程度しかなかった

ため、事前にパワーシャベルで地面を掘り返しました。

作業の事前学習として、メダカとトンボを例に生きものが喜んでくれる場所にするにはどうしたら良いのかを考え、浅瀬のある池を作ることにし、もともと日当たりの良い場所に一部木が生えているので、それを活かすように計画しました。

7月初めの梅雨の晴れ間のとても暑い日の午後。生徒諸君は慣れない作業でもスコップを手に、がんばりました！私はへトへトになりました…(汗汗汗！)。



でもその後、担当の

先生から「生きものが少しずつ増えています。ゲンゴロウの仲間も来ているみたいですよ」とのお話を聞き、ホッとしました〜。植物を植えつける時間が無かったので、近くの川へ行って植物を少しいただき、植え付けを生徒の皆さんと早くやりたいなと思っています。冬にはヤゴを中心とした生きもの調査もやって、成果を確認したいものです。

★保育園ビオトープの改修★横浜市にある「かさまの杜保育園」には、園庭に流水と止水(水が溜まっている部分)で構成されるビオトープがあります。

ところが、どうも水の流れと溜りが次第にうまく機能しなくなり、時には水が枯れてしまうことも出てきました。

そこで、止水部分に十分に水が溜まるように改修をすることになりました。いろいろと難しい面もあり、何回かに渡って工事をしましたが、8月下旬にようやく終了。

すでにトンボが来て産卵をしています。近くの田んぼのそばで採取して植えた植物も元気に育っています。

何度か足を運ぶ間に、元気で人懐こい子どもたちとも



改修後の止水部分

すっかり顔なじみになり、これから一緒にビオトープでたくさん楽しみたいな！とワクワクしています。

秋に親子向けのワークショップを開催する予定で、生きものも人もともに交流をしていく場になってほしい、そのお手伝いをどんどんしていきたいと思います。★かさまの杜保育園のビオトープ事業は、人と自然の研究所・三森典彰氏・私の3者で協働展開しています☆

★田んぼから★6月から8月上旬までは田んぼの繁忙期です。

田植えが無事に終わると、毎日スタッフが交替で水の管理のために田んぼに足を運びます。いわゆる「田まわり」という仕事で、水のほかにも稲の成長の具合、田の草の出具合、畦の草の伸び具合、ほかの田んぼとの比較、畦に穴があいたり崩れたりしていないか、天気はどうか、次の作業はいつどのようにやろうか、生きものたちは今年も元気か…などなど、こうして書いてみると、いや〜いろいろありますナ！

今年は4、5月が低温だったせいか苗が小さく、田植え後も成長が遅れ気味でしたが、夏にしっかり暑くなったので



稲に混じって咲くオモダカの花。
水田雑草の1つですが、つい…

グンと伸び、8月初めに穂が出始めました。すずめ避けのネットを張り終わると、一段落。お盆が明けると穂もだいぶ出揃い、そろそろ「水抜き」という作業に入ります。

この水抜きをなぜやるのか、以前、ベテランの指導員に質問したことがあります。返ってきた言葉を私は忘れられません。それは「稲にケジメをつけさせる」。

水生植物である稲の水をあえて控えることで、ダラダラ



ネット掛けの杭を打ち込む

させない、しっかりと実るようにケジメをつけるということです。

少し厳しい環境に置くことでかえって実りが多くなる、なんとも人に置き換えてみたくなる話です。

そして「実るほど頭を垂れる稲穂かな」。私もかくありたいと、自然はいろんなことを教えてくれます。「人生で必要なことは全部田んぼで学んだ」という本が書けそうです。

★トンボどこまで調査に参加★8月6・7日、横浜市内で「トンボはどこまで飛ぶか調査2008」に参加しました。

この調査は「京浜の森作り」の一環として毎年実施され、今年で6回目を迎えています。調査方法は、横浜市京浜地区10箇所の調査地点にて3日間、9時～12時の間にトンボを捕獲し、羽に識別番号を書いてまた放すというものです。これにより、どのような環境にどのようなトンボ



が生息し、さらにどの程度の距離を行き来するのかを把握し、生きものの生息地(ビオトープ)作りに活かしてい

こうとするものです。私はマツダと東京電力の2箇所に他のメンバーとともに参画しました。

私がこの調査に参加した一番の動機は、「トンボがどれくらい移動するのか知りたい」ということでした。ビオトープ関連でトンボの移動距離について話す際に、本で読んだり、人から聞いた知識だけでは、あまり説得力がないからです。

自分が手足を使って体験して得たことは、自分の中で腑に落ちているので、生き生きと話せるし、聞いている方もおそらく楽しく聞けるのだと思います。

〇〇つぶやき〇〇テレビでフォークソングの特集を見た。懐かしい歌の数々だが新しい発見も。「フォークの神様」と言われる岡林信康のライブを初めて見たが、シャベリが面白い！歌のアレンジがいい！彼に限らず、ライブで歌うフォークの人たちはシャベリがいい。それぞれに雰囲気をかもし出している。楽しみながら勉強させてもらった。ロック風「山谷ブルース」、いいよ〜♪♪この夏、映画「インティ・ジョーンズ〜クリスタル・スカルの王国」を観た。シリーズ4作目、今回もその娯楽大作ぶりを大いに堪能したが、1つだけいけないシーンがあった。冒頭で核爆発実験が描かれ、インティが鉛張りの冷蔵庫に隠れてその難を逃れるというものだ。日本人だったらこんな描き方は決してできないのでは。かのスピルバーグ、ルーカスと言えども核への認識はこの程度かとちょっとガッカリしたのである。

★自己紹介★私は、里山を生かした公園のスタッフとして自然の保全やイベントの運営に携わる一方、「あおぞら自然共育舎」として、フリーランスで自然体験・再生・創出のための仕事をしています。「気づき」を大切にするのが信条。最近はビオトープ関連の仕事も増えてきました★この通信で自然のことや私がやっていること、日常で自然とのふれあいを楽しむヒントのようなこともお伝えできたらなあと思い、私が出会った方や知っている方にお渡ししています。ご家族やお友達との回し読み歓迎です☆ネイチャーゲームインストラクター・ビオトープ管理士・有)カルティバイトカンパニー 人と自然の研究所客員研究員☆横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。



*仕事の相談、感想はこちらまでお気軽に！→hiromi-h@river.dti.ne.jp 早川広美 (あおぞら自然共育舎)

同じように、私はワークショップなどの参加者にも、私の話で「へえ〜」と言わせることよりも、一人ひとりがオリジナルの体験をする中で自分の中から「へえ〜」が生まれることの方がずっと大事だと思ってやっています。

もちろん、何もかも体験することはできないし、人の話や本に感銘を受けることも大切だし、知識も必要です。それらがいろんなきっかけになっていくことでしょう。要は、自分自身の手足頭それに心をどれくらい動かしたかということが、人を作っていくということなのかもしれないな、と思います。

★ゴーヤのカーテンできた?★『あおぞら通信』No. 9で、ゴーヤの種を蒔いて我が家の壁面ミニ緑化を図っています〜とお知らせしました。5月上旬にようやく芽生えたゴーヤ君たちのその後です。

芽が出た後もなかなか伸びず、9月初めでこれくらい(写真)。カーテンになる前に枯れてしまうかも〜(涙)

熱帯性のゴーヤを種から育てるのはやはり無理があったのかなあ。やはり身土不二ということか?もう少し様子を見よう!

